

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております)

3172号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 武居丈二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>



隠岐の島 (島根県西ノ島町)

もくじ

● 随 ● 情 ● 情 ● 情 ● 活

想 報 報 報 動

- 自由民主党 総務部会関係合同会議に荒木会長が出席……………(2)
- 都道府県町村会長の略歴……………(3)
- 村民わずか535人!山梨県丹波山村からの「小さな試み」……………(4)
- 町村ご当地キャラじまん……………(8)
- 「不易流行」と「人が人を呼ぶ」……………(11)
- 鳥取県江府町長 白石 祐治……………(11)

コラム

対策と効果の観点も

福島大学教授

生源寺 眞一

この原稿をパソコンに入力しているのは、締め切りが翌日に迫った8月19日。自分でもうのも変だが、こうしたコラムなどを長年にならなくて比較的余裕をもって執筆してきた経緯からすると、今回はやや異例の状況となった。理由ははっきりしている。テーマを変えたのである。1週間前までは別の話題を念頭に置いていたのだが、迷いが生じることになった。西日本から東海に広がった豪雨のニュースに連日接したことによる。若いころから全国の農村に足繁く通った経験もあって、被災地の地名が気になる。なかには田畑や森の様子が具体的に思い浮かぶ町村の災害も報じられている。

も、すでに被害が確認されているケースがある。当面は予断を許さない状況が続くとみられる。ここで改めて注目しておきたいのが、地域農政未来塾4期生の郡司裕美子さん(茨城町役場)の研究と実践である。多彩な内容からなるが、ポイントには台風や豪雨による被害にあった農産物などについて、菓子店・パン屋などの加工業の有効利用について、農家の金銭的なダメージやメンタル面の困難を救済するところにある。取組は現在進行形であり、郡司さんご自身が由緒ある大日本農会の機関誌『農業』の7月号に寄稿している。

この夏の豪雨には、1993年を連想させる面がある。梅雨が明けなかつたなどと表現された冷夏の年であった。30代半ば以上の方であれば、米の不作による混乱が記憶にあるのではないが、平成の米騒動などと報じたマスコミもあった。東北を中心とする冷害によって、平年比で74%に減収したからである。今回の長期の豪雨の農作物への影響について

自然災害については、被災の原因と結果が報じられるわけだが、事前に対策を講じたことによって被害が回避されたケースも存在するはずである。回避に至らないまでも、軽減されることもあるだろう。どんな対策によってどのように回避・軽減されたかを把握し、情報として共有することも大切なのである。郡司さんの研究と実践には、対策と効果をめぐる情報の重要性を発信している面がある。

写真キャプション

隠岐諸島は全体がユネスコ世界ジオパークに認定されており、その中のひとつ西ノ島は、日本海と荒々しい断崖絶壁の風景を楽しめる場所として人気。どこまでも広がる蒼い海と、それをバックに広がる牧草地でのんびりと草をみをする牛や馬。西ノ島は牧畜の島で、牛と馬のほとんどが放牧によって飼育されている。レンタカーで走っていると、道路をお散歩している牛や馬も見ることが出来る。

活 動

自由民主党 総務部会関係合同会議に 荒木会長が出席

全国町村会

自由民主党は、8月25日、総務部会関係合同会議（WEB会議）を開催し、令和4年度政府予算概算要求をとりまとめるにあたり、地方六団体等からヒアリングを行った。本会からは荒木泰臣会長（熊本県嘉島町長）が出席した。



▲会議に出席した荒木会長

地方創生については、デルタ株などによるかつて経験したことのない「感染爆発」を受け、大都市部への過度な一極集中にはリスクがあるとして、「中央省庁の地方移転」「大企業の地方分散」「地方大学の魅力向上」「地方国立大学の定員増の着実な実施」などを求めた。

DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進に

地方六団体を代表して飯泉嘉門全国知事会長（徳島県知事）は、新型コロナウイルス対策に係る財政措置について、令和4年度以降における「地方創生臨時交付金」や「緊急包括支援交付金」等、必要となる財源の十分な確保と運用の柔軟化を求めた。また、ワクチン接種については、令和4年度以降における供給量の十分な

確保と市町村への適切な配分、さらには我が国の叡智を結集した「特効薬」の開発促進などを求めた。

また、感染防止対策をはじめ、経済雇用対策や人口減少、防災・減災対策など地方の実情に沿った行政サービスを十分行えるよう地方交付税等の一般財源総額の確保・充実に求めた。

については、9月に発足するデジタル庁を核とする「誰一人取り残さない」デジタル社会の実現に向け、5Gや超高速ブロードバンドの一日も早い整備やコンテンツの充実を求めた。

GX（グリーン・トランスフォーメーション）の推進に関しては、「2050年カーボンニュートラル」実現に向け、国が新設する「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金」について、モデル地域のみならず、全国での取組への柔軟かつ大胆な支援を求めた。

また、7月の熱海市における土石流災害や広域的な豪雨災害など、甚大な被害を及ぼす大規模自然災害を踏まえ、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」については、補正予算ではなく、必要額を当初予算で措置するよう求めた。

このほか、次世代を担う「人づくり」について触れ、「こども庁」の創設が議論される中、単なる組織論にとどまら



▲挨拶に立つ武田総務大臣

ず、少子化対策を真に後押しするための大胆な予算や人材の投入と権限の強化などを求めた。

その後挨拶に立った武田良太総務大臣からは、令和4年度の総務省予算の概算要求について、「次なる時代を切り拓く活力ある地域社会の実現」として「総務省重点施策2022」をまとめたとする発言があった。大臣からは重点施策が、新型コロナウイルス感染症により顕在化した課題を解決し、豊かさを実感できる次なる時代を切り拓くため、デジタル変革（DX）の加速とグリーン社会の実現や活力ある地方を創

活 動

り、安心・安全なくらしの実現、地方行政基盤・持続可能な社会基盤の確保などの取組を進め、活力ある地域社会を実現したいと述べた。

そのため、「Iデジタル変革(DX)の加速とグリーン社会の実現」、「II活力ある地方創り」、「III防災・減災、国土強靱化の推進による安全・安心なくらしの実現」、「IV感染症への対応、活力ある地域社会の実現等」を支える地方行政基盤の確保、「V持続可能な社会基盤の確保」という、5つの柱と18の施策をとりまとめたと紹介があった。その上で、来年度の予算については、この重点施策にそって概算要求をしっかりと必要額を確保したいと述べた。また、地方財政についても、地方団体が感染症に対応し、活力ある地域社会の実現に向けた重要課題に対応しつつ、行政サービスを安定的に提供できるよう「新経済財政再生計画」などを踏まえ、一般財源総額をしっかりと確保したいと述べた。

※地方六団体の「主要要望項目」については、全国町村会HP (<https://www.zck.or.jp>) をご覧ください。

都道府県町村会長の略歴

富山県町村会では令和3年1月27日の臨時総会で次の通り会長を選出した。(1月27日就任)

富山県町村会会長
中川郡立山町長

舟橋 貴之
昭和40年5月17日生



高知県町村会会長
高岡郡日高村長

戸梶 眞幸
昭和28年7月25日生



高知県町村会では令和3年2月27日の定例会で次の通り会長を選出した。(2月28日就任)

【住所】 中川郡立山町五郎丸161

【町村長としての当選回数】 4回

【町村長に就任するまでの経歴】

▽平成元年4月国会議員秘書
▽平成10年2月立山町議会議員
▽平成18年2月立山町長

【町村会関係の経歴】

▽平成27年6月〜令和3年1月町村会副会長

【主な業績】
▽企業誘致(株)モンベル初の大型複合店舗『モンベルヴィレッジ立山』・海外輸出をメインとする日本酒醸造会社・印刷会社本社

ほか多数)▽県内トップクラスを自負している学校教育環境(校舎・エアコン・電子黒板ほか)▽赤字ローカル線存続のための駅・図書館・保健福祉サービス等の複合施設整備▽持続可能な農業を構築するための法人設立と基盤整備支援▽地籍調査

【趣味】 農事組合法人の仲間と農作業・畦畔の草刈り・山小屋泊でビール

【住所】 高岡郡日高村本郷2689番地3

【町村長としての当選回数】 4回

【町村長に就任するまでの経歴】
▽昭和49年4月日高村役場採用
▽平成10年10月日高村議会議務局長
▽平成13年4月日高村総務課長
▽平成20年1月日高村役場退職
▽平成20年6月日高村長

【町村会関係の経歴】
▽平成25年2月〜平成27年2月監事
▽平成27年2月〜平成29年2月副会長
▽平成31年2月〜令和2年2月副会長

【主な業績】
▽村特産のシユガートマトを核とした村づくり(オムライ

ス街道)▽村内全域への光ケーブル網の構築▽地域・学校・家庭・行政(教育、福祉)の連携による子育て支援であるカルテットプロジェクトの取組▽水害に強いまちづくり条例の制定(流域治水プロジェクト)▽村まるごとデジタル化事業(スマートフォン普及100%を目指す村)の実施▽前述の取組等により、これまで自然減だった日高村の人口は、平成28年度からの社会増につながっている

【趣味】 ゴルフ・ウォーキング・映画鑑賞

【家族】 妻との2人暮らし

▶丹波山村風景



1 丹波山村発 「小さな村g7サミット」

伊勢志摩「G7」サミットから閃いた小文字の「g7」サミット

山梨県丹波山村は村民わずか535人の小さな村です。そんな小さな村で2016年5月、伊勢志摩で開催され

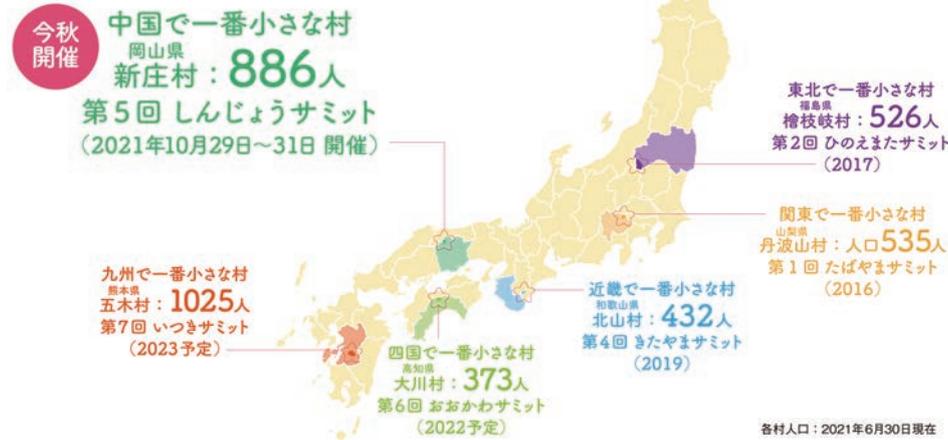
た「G7サミット」に先んじて、一週間前に行われたサミットがありました。「小さな村g7サミット」です。大文字の「G」ではなく小文字の「g」。北海道、東北、関東、近畿、中国、四国、九州と、丹波山村と同じ中山間地で、もっとも人口の少ない7つの村が集い、3日間にわたリサミットを行いました。すこしユーモラスな情報発信ですが、基調講演には「里山資本主義」がベストセラーとなった藻谷浩介さんにお願

村民わずか535人！ 山梨県丹波山村からの「小さな試み」

NPO法人小さな村総合研究所 代表理事 小村 幸司

小さな村g7サミット

— これまでとこれから —



丹波山村より人口の少ない村を訪ねて得た「気づき」
「g7」を思いついたのは2014年のことです。伊勢志摩がサミット候補地となったことをニュースでみて、「G」が「g」になって7人の村長が集まったらと妄想しました。まずは7つの小さな村を訪ね歩いたのですが、最後に訪ねた村である気づきがありました。それは、丹波山村よりも人口の多い村での取組には「仕方ない、人口が多いし予算も大きい。」と勝手に納得したのですが、丹波山村より人口の少ない村には「なんで丹波山村より人

◎小村幸司
1965年熊本生まれ。長崎大学経済学部を卒業後に上京。旧三菱銀行勤務を経て映像ディレクターに。経済、教育、海外のテレビドキュメンタリーを中心に携わる。東北の林業、東日本大震災後の被災地、旭山動物園・JR九州・ジャパネットたかた他地方経営者と地域活性化、海外教育、北欧の社会制度等を取材。2014年に丹波山村の地域おこし協力隊に。2017年より現職。

情 報

口が少ないのに、こんな取組ができるのだろう。」と悔しさを覚えたのです。自分ではとりました。つまり、小さな村の方が相手に与える刺激やインパクトはむしろ大きい、という事です。そう気づいた時に、自分の中のフェイズが変わりました。小さな村が元気になることで、日本が元気になるかもしれない。旅先で力が湧きました。

2 NPO法人小さな村総合研究所としての活動

行政ではやりづらいこと、民間だけでもできないこと

2014年から地域おこし協力隊と



▶ NPO法人小さな村総合研究所の設立メンバー

して地域活性化の取組を続ける中で「行政ではやりづらい」という壁に直面したことがあります。かといって民間でやるとなると負担が大きすぎます。手をつけにくい「空白地」が見えましたが民間なら、公共性をもつて進められるのではないかと、村民の若手10名に声を掛けました。若手といっても30〜50代。多くは自営業者、そして役員職員です。厳しいこともはっきりいおうメンバーを集めました。お願いしたのは全員が理事就任。入会金は一人50,000円。ぼったくりのようなNPO設立ですが、賛同してくれ、今も運営できているのは設立メンバー10名のおかげです。法人名は少々ふざけてつけました。日本最大のシンクタンク「日本総合研究所」で丹波山村の話をする機会があったときに、ふと思いついたネームです。

村タク(たばやま村民タクシー)

2017年1月にNPO法人を設立し、最初に取り組んだ事があります。山梨県庁OBでもあった当時の深澤副村長から「高齢者から病院などへの移動相談



▶ 村民タクシー

があるが何か良い方法を探ってもらえないか」という話を受けました。幾つか先進事例を視察に行き、丹波山村にあう形を模索し、同年12月から運営をはじめたのが「村タク」です。

メディアの情報発信から想定外の逆アプローチ

正式名「公共交通空白地有償運送」は全国で導入されていて、決して目新しくないので、たまたま山梨県内では初めてで、賛同したドライバーが57名いたことから、県内のメディアから取材を次々と受けました。なかでもNHK「おはよう日本」で全国放送されたときの反響は大きく、さまざまなアプローチが県内だけでなく東京やシンガポールからも届きました。世界的大手メーカーの新規事業部、大手商社OBのシニアベンチャー、官庁、大学などなど。そこである共通点に気づきます。彼らはプレイヤーであり、キーマンであり、何か新しいことに取り組み、何かを探している人たちであり、たまたま小さな村からの情報発信に可能性を感じた人たちでした。

3 首都圏での情報発信と産官学NPOとの協働

東京23区から首都圏キーマンを探すプロジェクト

小さな村を飛び出して東京で積極的な情報発信を行えば、小さな村での可

能性を見つけてくれる人たちがもっているかもしれない。東京23区で情報発信をおこない、首都圏キーマンからの「逆アプローチ」を待つ拠点オフィスを構えるのはどうだろうか。これまで自らのアイデアを持ち込んで上手くいかなかった反省もありました。そう考えて村に提案したのが「首都圏拠点事業」です。さらにお願したのは、丹波山村だけでなく連携する6村のことも情報発信させてほしいと。お願いする方もする方ですが、理解してくれた村にはホントに感謝しています。

首都圏での情報発信からの初「逆アプローチ」

2019年9月、首都圏での情報発信として、東京渋谷で「小さな村97サミット東京会議」を行いました。7村長と20代の若者たちとの意見交換をねらった特別サミットです。この様子が再びテレビで取り上げられ、放送当日にメールをくれたのが大田区にある予防医療ベンチャー「アグリマス」の小瀧社長でした。首都圏事業初の「逆アプローチ」です。予防医療という点に可能性を感じ、すぐに会いに行きました。丹波山村へつないで半年、コロナ禍に高齢者向けのデイサービスが困難となる中で、「アグリマス」が持つ健康体操の映像コンテンツをケーブルテレビで毎日放送することに。後にわかったのですが、親会社は全国に4

情 報

◀小さな村g7サミット東京会議(2019)



20店舗を構える「なの花薬局」。都内10店舗での特産品販売にもつながりました。小瀧さんは税理士であり、かつては大阪証券取引所でベンチャーを支援してきたビジネスのエキスパー。その後も、村営温泉と組んで都内企業向けのワーケーション事業を立ち上げたり、小中学生に向けて地域課題を解決するアイデアを募集する「子どもベンチャーアイデアコンテスト」にもソーシャルベンチャーを集め協賛してもらっています。

「駅チカ」の首都圏拠点オフィス探しは「駅ウエ」に
丹波山村は多摩川源流にある村で、

水や森を巡る東京との歴史や物語を伝え残したいという思いから、首都圏オフィスは河口域の大田区にと決めていました。不動産屋だけで30軒、1000を超える物件を見て回りましたが、駅チカの場所を予算内で探し出すのは困難でした。ほぼノイローゼになりつつ夫婦喧嘩が絶えなくなる中、嫁が探ししてきたのがJR蒲田駅ビル「グランデュオ蒲田」のイベントスペース。「探しているのはオフィスだよ。」と思いながら、駅ビル担当者と会うことになり、ここから奇跡が始まります。提案されたのは一階フロアの空きスペース。周りは「新宿高野」「東京ラスク」「文明堂」(2019年当時)という有名店ばかり。「駅ビルはどこも同じに。何か新しい試みを。」という担当者は物腰柔らかくも、面倒をいとわずゼロからイチを生もうとする熱き人でした。アンテナショップだけはやらないと心に決めていたので心が動かされそうな好条件。それでも2度目の打合せで「ホントに探しているのはオフィスなんです。」とやんわり断ると、同席した上役が「屋上階に10坪ぐらいの旧写真スタジオがありますよ。」というまさかの答え。「グランデュオ蒲田」はジェイアール東日本商業開発が運営するJR東日本グループの1つ。駅ビル内にオフィスを設置させるといっの声にも2人がかけあって実現しました。

声にも2人がかけあって実現しました。

コロナ禍にみまわれて万事休すのピンチに

2020年2月にオフィス、4月に「小さな村g7 TOKYO ショップ」を意気揚々とオープンさせたのですが、わずか一日で緊急事態宣言となり、休業を余儀なくされました。首都圏拠点事業の要と考えていた23区でのイベント参加も全て中止に。情報発信が全くなできない。悩みに悩み、見つけた活路が、大田区内の本屋、花屋、弁当屋、地域活動するNPOとのコラボなどなど。区内での地道な情報発信でした。



▶7月9日にリニューアルオープンした「小さな村g7 TOKYO ショップ」

大田区長から丹波山村長への直電「小さな村g7+1サミット」

地道な地域コラボを続ける中で、その活動の一端を、これまたテレビで見たいという人からまさかの逆アプローチがありました。松原大田区長です。区産業経済部長から相談を受けたのは放送日翌日のこと。2日後には区長自らがグランデュオ蒲田のショップを訪れました。さらに区長からの電話が丹波山村の岡部村長に届き、村長から連携する6村長へダイレクトコール。話ほとんどん拍子に進み、7月9日「小さな村g7+1サミット」を特別開催しました。会場は羽田空港そばにある大田区肝煎りの「羽田イノベーションシ



▶小さな村g7+1サミット(2021)

情 報

ティ」。小さな村と都市がお互いの暮らしを尊重し、お互いに行き来して、ヒトやモノを分かち合い、足りないものを補い合う。まだまだ未知数の試みですが、はじめの一步となりました。

4 働き方と休み方をみつめなおす

7年半前に山梨県丹波山村へ移住

私は今から7年半前に丹波山村へ移住しました。大学卒業後に上京し、銀行勤務を経てテレビディレクターとなりましたが、25年近く都市生活を続けた私には「小さな村」での暮らしが魅力的に思えてきました。地方経営者や地域活性化の取組を取材したというのもありですが、たまたま「地域おこし協力隊」のを知って調べ始めると朝まで眠れなくなり。募集する自治体の中で一番人口の少なかった村が丹波山村でした。そして「小さな村」に興味を持った理由はもう一つ。私の根っこにある学生時の体験です。

ニュージーランドの牧場で学んだこと

幼い頃から牧場に憧れ、大学を一年休学し、見つけたのがニュージーランドの小さな町でした。牛300頭、羊が150頭。何もかもが新鮮でしたが一番驚いたのは「休み方」でした。忙しい牧場主も一年に10日間バカンスをとります。海辺の小さな町に家族で出かけビーチでのんびり。すると滞在先

の小さな町のシヨップやレストランが潤う。1980年代後半「日本経済は飽和状態」といわれていましたが、日本でもこんな風に「休み方」が変われば、新たな時間が生まれ、新たなマーケットが生まれるんだらう。会社帰りの2時間、週末の2泊、1年の2週間が新しいビジネスチャンスになるだらう。何か大きなヒントを得た気がして、そう卒論にも書きました。ところが私の未来予想は全て外れます。土地や株にあげくれリゾート開発は進むも誰も休まないし休めない。そしてバブル崩壊。「仕方ない」と正面から向き合えないままにいたのが「働き方」と「休み方」でした。

いろんな暮らしの選択肢があることを学生たちに伝えたい

丹波山村に移住して最も新鮮に感じたのが、役員職員が自宅に帰り昼食をとることです。つまり三食を家族と食べる。ひと昔前の日本には当たり前であった光景が小さな村にはありました。ここ数年、高校や大学の先生から地域活性化の取組の話をしてほしいと連絡をいただくようになり二つ返事で受けています。取組もですが、学生たちにもいろいろな「働き方」や「休み方」があることを伝えたい、都市とくらべてどちらがとがでなく、小さな村や町で暮らす選択肢だってあるってことを覚えていてほしいなと思います。

5 丹波山村の注目すべき「小さな試み」

今、もし私がまだテレビディレクターだったら丹波山村のこんな「小さな試み」に注目すると思います。

ゴールデンタイムのノーカット議会放送

移住して2年目のある日、議員さんたちから議会を撮影してケーブルテレビで放送してほしいと頼まれました。6年前のことですが、丹波山村では、議会の様子を休憩以外ノーカットで、10時と19時の一日2回、1週間ほど繰り返し放送しています。視聴率はほぼ100%。今は撮影にも放送にも関わっていませんが、これは村の誇りです。

わずか4年ちょっとで10社以上の法人設立

この4年半に、村内に10法人以上が誕生しています。村主体のものもあれば、地域おこし協力隊OBが、ライターのズカフェ、ジビエ、林業、高齢者福祉など地域課題に向き合うスモールビジネスやソーシャルビジネス、村出身者の40代が公共インフラを補う会社を起業するなど。わずか535人の村に起きている変化です。

「丹波山村未来会議」と「丹波山村教育戦略会議」

私も参加させてもらっています。

大学の先生やコンサルの話聞いてシャンシャンと手をたたくような会ではありません。村外からと村内の人たちが入り混じって、意見をぶつけあう姿は感激します。大企業で働く専門エキスパートもいれば、ベンチャーの経営者たち、文科省の元事務次官まで。村の中に、外から来る人たちへの「慣れ」と「寛容性」が確実に広がっているように感じます。

6 「寛容性」と「小さな試み」を小さくても閉じない！

「寛容性」を育むのは「慣れ」。これを教わったのは、地方創生の先進地として知られる徳島県神山町です。神山町で感じた魅力こそが「寛容性」と「多様性」でした。6,000人の小さな町に都市からさまざまな人たちが行き来して関わる姿です。「働き方」「休み方」も多様でまさに先進地でした。535人しかいない丹波山村でも「寛容性」は広がり「小さな試み」があちこちで生まれています。この波紋がどんどん広がることを願っています。最後に、北海道音威子府村のパンフレットの中に見つけたお気に入りの言葉を。「小さくても閉じない！」

町村

ご当地キャラじまん

Vol.79

特産品だけじゃない！

文化・歴史を身にまとして観光大使！！

ご当地自慢の美味しいものや伝統行事を身にまとい、
体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。
今回は、中ブロック（北信・東海・近畿）からピックアップ。

中
ブ
ロ
ッ
ク



長野県豊丘村

兵庫県太子町

和歌山県かつらぎ町

2010年、村政55周年記念に、「豊丘村の特産品、名所、文化等をモチーフとした明るく活動的なキャラクター」というコンセプトでイメージキャラクターの募集を実施しました。村内から応募のあった167点から数点を選出して村内で投票を行った結果、誕生したのが「だんQくん」です。「まつたけ」「かき」「りんご」「なし」といった村特産品と村の花「ごぶし」をあしらった帽子は、村の代名詞でもある「日本一の河岸段丘」を表現しています。テレビCMに出演したり、飯田弁でSNSを駆使したりと、村の魅力発信のために大活躍。村の「一大イベント」とよおかまつり」はもちろん、村内外のイベントにも積極的に参加し、明るい笑顔で村のPR活動に励んでいます。

だんQくん

長野県豊丘村

豊丘村イメージキャラクター



2010年7月1日生まれ。おとこのマイペースな永遠の5歳5カ月児。特技は果物をおいしくするおまじない。まつたけのすき焼きが大好物。市田柿づくりやりんご狩りが趣味。好きな言葉は「早寝・早起き・朝ごはん」。

太子町マスケットキャラクター

ぼっじ

兵庫県太子町



1月21日（1=棒、2=じ、1=い）生まれの男の子。年齢不詳だが、石年齢で小学校低学年くらい。じっとしていることが得意。一見頑固そうに見えるが、おっとりとして優しく、おだやかな物腰。

2021年の聖徳太子没後1400年に向けて、太子町の文化財及び町全体をPRするために誕生したキャラクター。2019年に、県指定文化財であり、聖徳太子ゆかりの鶴荘勝示石をモチーフにしたキャラクター案を公募。優秀作品3点の中から町内のイベントにて投票を行い、デザインが決定しました。名称も同様に、公募、投票により選出し、「ぼっじ」が誕生しました。活動範囲はまだあまり広くありませんが、町内の文化財が大好きなので、文化財を見学していると遭遇できるかもしれないのだとか。ご当地キャラとして誕生してからまだ日が浅いので、たくさんの人に知ってもらえるよう、これからもいろいろな活動にチャレンジしていきます。

※「鶴荘勝示石」とは、太子町とその周辺に存在した荘園の境界石と考えられている石で、聖徳太子が檜特山の山頂から投げた、太子の投げ石として知られている。

かつらぎ町イメージキャラクター

かきおっじ

和歌山県かつらぎ町



フルーツ王国の王子様。正義感が強く、その上優しいため、王国のみんなに慕われている。好きな場所は四郷串柿の里。同じフルーツ王国の「ももひめ」というフィアンセがいる。

かつらぎ町の若手職員で構成される「次代のまちづくりプロジェクトチーム」の発案により、町のイメージアップを図ることを目的に2008年7月にイメージキャラクターの募集を実施し、誕生したキャラクター。「かきおっじ」のほかに、「いちご娘」「ももひめ」「なつじ」「ぶどう兵団」といった、町特産品のフルーツから5品をキャラクター化しました。町がフルーツ王国であることをPRするだけでなく、世界遺産「丹生都比売神社」や「高野参詣道町石道」、400年もの歴史を持つ四郷地域の秋の風物詩「串柿」など、町の観光PRでも活躍しています。メインキャラクターとして活動している「かきおっじ」は、かつらぎ公園グラウンドで開催される「かつらぎ夏まつり」や金剛緑地広場での「星空のつどい」など、町のイベントに参加し、町民や観光客との交流も図っています。

今回は、西ブロック（中国・四国・九州・沖縄）からご紹介します

情 報

季節に拾う・新歳時記(9月)

小 牧 規 子(ジャーナリスト)

● 梨

みずみずしい実をつける梨は、古くから日本の秋の果実として親しまれてきた。江戸時代に栽培技術が発達し、栽培品種も増えた。今のように甘みの強い梨は、明治以降に発見されたり、品種改良されたりしたものだ。

果皮が褐色の赤梨と青緑色の青梨に大別される。赤梨の代表が長十郎で、青梨の代表が二十世紀だった。その後、赤梨では、より甘みの強い、幸水、豊水などが多く栽培されるようになった。

青梨の代表の二十世紀は、1888年に苗木が発見され、「20世紀を代表する梨に」との思いを込めて命名された。現在は最盛期の9分の1まで生産量が落ちた。より甘いものに押され気味なのだという。あっさりした甘さがおいしいのだが。

● 下水道の日

9月10日は「下水道の日」。汚水や雨水をどう処理するかは、古来、人々が集まって住む都市の重要な課題だった。9月10日は、立春から2200日に当たる「二百二十日」前後で、大雨をもたらす台風が来る特異日とされている。

大阪の「太閤下水」は、豊臣秀吉による1583年の大坂城築城を機に建

設された。道路に面した町家や商家の裏手、家同士が背中合わせになる場所に汚水を流す下水を掘った。背割下水と言ひ、やがて太閤下水の名が付いた。この下水は江戸時代になっても拡張され、町家が管理した。一部は今も現役で使われている。

最近では、短時間の大雨で下水の処理が追いつかない内水氾濫の被害が増えている。下水の役割を見直したい。

● 若山牧水

大正期を中心に活躍した歌人。本名・繁。現在の宮崎県日向市東郷町に生まれ、旧制延岡中学校時代から雑誌に短歌を投稿してきた。

1908年、早稲田大学卒業とほぼ同時に「白鳥は哀しからずや空の青海のあをにも染まずただよふ」などを収めた第一歌集『海の声』を出版した。1912年に結婚後もわらじ履きで旅に出ては歌を詠み、自然主義派歌人として、生涯に8800首以上の歌を残した。酒と旅を愛し、その作風は平易で純情。斎藤茂吉、窪田空穂らをしのぐ人気を博した。

1日に2升5合もの酒を飲んだという牧水は、肝臓を患い、1928年9月17日に死去。43歳だった。全国各地に約300もの歌碑が残る。

町村専用ページ「町村.com」をご覧ください

● <http://www.zck.or.jp/choson/> ●

全国町村会では、全国の町村との連携を密にし、町村長と町村職員のみなさんの情報収集の利便性を向上させるため、町村専用ページ「町村.com」を開設しています。

「町村.com」では、全国町村会の活動状況や中央省庁などの政策情報を随時ご提供しているほか、全国の町村の先進的な取り組み事例をはじめ、各種統計資料など様々なデータも公表しています。

私どもは、「町村.com」が町村関係者にとって真に役立つホームページとなることを目指し、これからも充実をはかっていきたいと考えています。ご覧になったご感想・ご意見を、下記のメールアドレスにお寄せください。



kouhou@zck.or.jp

- ・「町村.com」は、町村関係者の方だけがご利用いただける専用ページです。ご覧になる際は、所定のパスワードが必要になります。
- ・ユーザー名とパスワードは、各町村にお知らせ済み(平成18年9月27日付)ですが、お問い合わせは、全国町村会広報部(kouhou@zck.or.jp)までお願いいたします。

令和3年度 市町村長特別セミナー「地域経営塾」

全国市町村国際文化研修所 共催：総務省、内閣府、一般財団法人地域創造

全国市町村国際文化研修所(JIAM)では、市区町村長・副市区町村長及び部長級職員の皆様を対象に、市町村長特別セミナー「地域経営塾」を開催します。

本セミナーでは、芸術文化・防災・観光など、地域の特性を活かしたまちづくり・地域づくりにおける市町村の役割などについて、「地域経営」に関連する様々な分野でご活躍の講師にご講演いただきます。

日 程

令和3年10月28日(木)～10月29日(金)

会 場

全国市町村国際文化研修所 (JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分)

講 演

「地域自立応援施策の動向」

総務省地域力創造グループ地域自立応援課

「地方創生をめぐる最近の動向(仮)」

内閣府地方創生推進室

「COVID-19以降の公共施設 - 「広場」と「空き地」 - 」

劇作家、演出家 佐藤 信氏



「ミニコンサート」

Quatuor B (サクソフォン四重奏)



「自治体のデジタル化・DX推進と情報セキュリティ」

情報セキュリティ大学院大学 教授 藤本 正代氏



「おごと温泉の改革

～これからの時代に求められる女性経営者と観光～

株式会社国華荘 びわ湖花街道 代表取締役社長 佐藤 祐子氏



受講料 6,900円

定員 40名 (定員を大幅に超えた場合は、抽選とさせていただきます。)

申込期限 令和3年10月8日(金)

【お問い合わせ】

(公財) 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM) 教務部
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 電話 (077) 578-5932 FAX (077) 578-5906
e-mail : kenshu@jiam.jp ホームページ <https://www.jiam.jp>

随 想

全国で一番人口の少ない県、鳥取県の中でも一番人口の少ない市町村。それが江府町です。「河川が合流し府(中心)となす」というのが町名の由来で、きれいで、美味しく、豊かな水が町の自慢です。ふるさと納税の返礼品の約7割が、地元の工場で製造されているサントリー天然水というのも、江府町が水の町であることの象徴の一つかもしれない。



鳥取県江府町長 白石 祐治

江府町を語る上でのもう一つのキーワードは、「江尾十七夜」です。戦国時代、尼子と毛利が中国地方の覇権を争っていた頃、尼子方の豪族であった江美城主蜂塚右衛門尉はとも徳のある人でした。毎年旧暦の8月17日に城を開放して、領民も武士も無礼講の宴を開いていたということです。最後まで義を貫き、尼子を裏切ることなく討ち死にしていなかった城主を偲んで、その後毎年毎年旧暦の8月17日に領民たちは踊り続けました。これが「こだいぢ踊り」として県の無形民俗文化財となり、現在まで継承されています。「江尾十七夜」はこだいぢ踊りの他にも、火文字、灯笼流し、山車、相撲、太鼓、花火等、数々の行事が同時進行していきます。そして、狭いメインストリートいっぱいには立ち並ぶ屋台、人の波。この日だけは町の人口は1万人以上になります。町の一部の集落がその会場なので、密度はかなり高くなります。熱気あふれる非日常的な世界がそこに生まれます。私も子どもの頃からこの祭りが大好きでした。さまざまなイベントや屋台で楽しめるのもその要因ですが、長い間出会うことのなかった人と再会したり、友だちの家に集まってプチ同窓会が始まったりと、人と人と

の出会い、交流の場が自然にできるところが素晴らしいと思います。片思いだった人の浴衣姿をチラリと見るだけで、何とも言えない気持ちになったものです。このように、江府町民にとってなくてはならない「江尾十七夜」は、昨年の8月、新型コロナウイルス感染症対策のため、やむを得ず中止になりました。残念で残念でたまりませんでした。江府町民はもちろんのこと、町外に出られた出身者、そして、この祭りを楽しみにしておられた多くの町外の方にも、同じ気持ちだったと思います。しかし、江府町観光協会の担当者が一念発起。こだいぢ踊り保存会に協力をお願いして、こだいぢ踊りだけを無観客で実施することを企画しました。また、せっかくなのでその様子をYouTubeを使って全世界に発信することも。この様子はドキュメンタリーとしてNHKに取り上げられ、30分番組として、山陰、中国地方、そしてBSでも放送され、大きな反響がありました。

私は町長に就任してから、まちづくりのための方向性を示すいくつかの言葉を発してきました。その一つが「不易流行」です。「古き良き伝統をしっかり受け継ぎながら、進歩に目を閉ざさないことにより、理想を創造する。」という意味があります。まさに、江府町には戦国時代にそのルーツを持つ「こだいぢ踊り」があり、それを核にして「江尾十七夜」を時代に合った形で作ってきた。コロナ禍でも心折れることなく、想いの強さは負けない、そんな誰かが言い出したことを、周りの人達がしっかり支えて盛り上げていく。顔の見える小さな町だからこで、こうした支え合う気持ちがとても大切です。新型コロナウイルスワクチン接種でも、役場職員のごまやかな配慮について多くの町民の方から感謝のお言葉をいただきました。おかげさまで職員は大いに成長し、今後より良いサービスを心がけるでしょう。

最後に、江府町は他の中山間地の小さな自治体と同様に、少子高齢化、人口減少という大きな課題に直面しています。その流れに少しでも抗うためには、町の自慢である水と併せて、困難を何とか乗り越えようとする一人一人の力がとても重要です。その人の魅力に惹かれ、江府町に関心を持っていただける人が一人でも増えることを期待しています。「人が人を呼ぶ」これも私が大切にしている言葉の一つです。

ハロウィン ジャンボ 5億

ハロウィン ジャンボ 5千万

当せんの
チャンス
広がる

1等前後賞合わせて5億円
1等3億円、前後賞各1億円

1等前後賞合わせて5,000万円
1等3,000万円、前後賞各1,000万円

この宝くじの収益金は
市町村の明るいまちづくりや
環境対策、高齢化対策など
地域住民の福祉向上の
ために使われます。

2つのジャンボで
欲張りハロウィン。

ネット購入は
こちらから!



宝くじ公式サイト
<https://www.takarakuji-official.jp/>

9月22日(水)

発売期間 9月22日(水)~10月22日(金) 抽せん日 10月29日(金)

同時
発売



各1枚 300円

一般財団法人 全国市町村振興協会

2021年 新市町村振興宝くじ